

式辞

本日、神戸大学附属中等教育学校に、新入生として18回生106名を迎え入れることができました。新入生のみなさん、入学おめでとうございます。本校はみなさんのことを心より歓迎いたします。長い冬もようやく終わりの様子を見せ始め、本日の気候も咲き誇った桜も、みなさんの入学を祝してくれているかのようです。神戸大学理事・副学長 玉置 久（たまき ひさし）先生をはじめ、多くの御来賓の方々や保護者のみなさまに御臨席いただき、入学式を挙行できますこと、学校としてこのうえない慶びでございます。

新入生のみなさん、今日は何時に起きましたか。さっそく明日から通常登校が始まります。何時に起床の予定ですか。自分一人で起きれそうですか。小学生の時よりも朝が早くなる人が多いのではないのでしょうか。帰宅が遅くなることもあると思います。小学生の時とはずいぶん違った生活が始まります。少しずつ慣れていってほしいですが、「起きる時刻」と「寝る時刻」を固定しましょう。みなさんの先輩たちに聞くと、本校の生活は忙しいです。日中に様々な活動をするには、休むべき時に心と体を休めることはとても大事です。「起きる時刻」と「寝る時刻」を固定して、日中に様々な活動に取り組んでほしいと思います。

さて、本校は「国際的視野を持ち未来を切り拓く、真理探究の精神に富んだグローバルキャリア人の育成」が教育目標です。いくつか言葉が出てきましたね。国際的視野とは何でしょうか。真理探究の精神とは何でしょうか。グローバルキャリア人とはどのような人のことを言うのでしょうか。

本校は「多様性」を大事にしたいと考えています。いろんな人たちがいて、それでいいのだということです。あなた自身がまわりから「それでいいのだ」と認められることにつながります。いろんな人たちがいて、それでいいと思える。これが「国際的視野」なのだと考えてください。

でも、人が社会で生きていくのとにかく何でもいいのだということではありませんね。あなたがまわりの人から認められる、ということは、周りから認められるべき人であることがあなたには求められます。今自分は何をすべきか、どうあるべきか。授業は先生だけが作るものではありません。授業では、生徒が、自分が、どうあるべきか。生徒会でも部活動に所属しても同じです。部員として自分はどうあるべきか、何をなすべきか。まず自分がどうあるべきか、これを先に考えられる人になってください。そして授業が、生徒会が、部活動がどうあるべきかも考えましょう。考えたら実行しましょう。これが「真理探究の精神」の始まりです。

自分が認められていて、まわりの方のことも認めることができ、その中で自分が、組織が、どうあるべきかを考えて実行に移すことができる。そのような人を「グローバルキャリア人」と呼ぶのだ、と私は考えています。この資質はあなたの一生の財産になると考えています。そのような姿を目指して、6年間、本校生活を味わってほしいと願っています。

保護者のみなさま、本日はお子さまのご入学、誠におめでとうございます。今日のこの日を待ちわびておられたのではないかと拝察いたします。

みなさまは、6年前もお子さまの入学式を迎えられたはずですが、しかし6年前の春は、全国学校一斉休業の真ただ中でした。入学式を行えなかった小学校が多いのではないのでしょうか。もしかすると、本日が保護者として出席される初めての入学式、という方もいらっしゃるかもしれません。感激もひとしおのことと存じます。12歳から18歳までの6年間は、小学校の6年間とは違った長さがあります。心身ともに成長します。先日

までランドセルを背負っていたお子さまは、卒業時には選挙権を有することになります。お子さまの成長、変わりゆく姿を温かく見守っていただければ、お子さまも安心して明日をむかえられるのではと思います。在学中、保護者のみなさまにはご理解ご協力をお願いする場面が多々あると存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

新入生のみなさんのこれからの本校での生活が、実りの多いものとなりますよう祈念し、式辞といたします。

二〇二六年 令和八年 四月八日 神戸大学附属中等教育学校長 高木勝久